

平成29年度各学年における検証改善サイクル スケジュール ～学力調査等との関連から～

尾道市立日比崎中学校

H29学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H30学年
中1	●												●
中2			●										●
中3	●												●
定期テスト		定期テスト 活用問題	定期テスト 活用問題					定期テスト 活用問題		定期テスト 活用問題		定期テスト 活用問題	
研修		目指す授業の共有	示範授業(理科) 小笠原豊先生 示範授業(道徳) 川崎先生 音楽研究授業	英語研究授業 国語研究授業	小中合同研修	社会研究授業		保健・体育・ 社会・理科研究 授業				国語研究授業 理科研究授業	
学年部	全国学力・学習状況調査 自校採点及び分析			各学力調査の分析及び、年度末までの計画を具体化する。(8月9日まで)	課題を意識した授業の在り方の共有 「書く」ことを意識した帯タイム・補充学習の徹底	取組の実践と徹底	思考力テストの作成(11月末まで)	思考力テストの実施及び取組の検証(12月末)	課題を意識した授業の工夫を全員が行っている。(2月末)	めざす児童生徒の姿の達成	次年度の目標の設定		
研究主任					スケジュールの 掲示(8月末まで)	課題を意識した授業についてのイメージの共有(9月末)	校内研修	アンケートの実施による取組の検証(11月末)	校内研修(思考力テスト及びアンケート結果)			アンケートの実施による取組の検証(2月末)	
教務主任					月1回の主任会で進捗を確認する。	各学年の取組に係る専科・加配教員の調整	授業観察		主任会において2学期の取組の成果と課題をまとめる				
教頭					経営会議で年度末までの取組について協議(6月末)	スケジュール管理	授業観察		3学期の取組の具体の共有(12月末)			3学期の取組の確認(1月12日まで)	
国語	課題となった設問、領域等の改		課題となった設問、領域等(指導方法等の改善計画とリンクさせる)				<具体策> 生徒が書く文章などにおいて、推敲させて主語と述語の係り受けが適切であるかどうか考えさせる。 <定着に向けて> 主語が省略されている文章の読解などにおいて、文脈に注目させて主語を答えさせる指導を行う。		課題となった設問、領域等(指導方法等の改善計画とリンクさせる)				
社会	市の学力調査分析		全国学力 国語 領域(伝統的な言語文化)正答率(46.6%)無答率(12.3%) 数学 領域(資料の活用)正答率(11.0%)無答率(6.8%)				<具体策> 資料を用いて仮説を立てて、自分の考えを表現できる活動を行う。 <定着に向けて> 単元テストを行う。班活動を行い、ホワイトボードを用いて、思考・判断・表現力を養う。		国語 目標値(52%)実施後() 数学 目標値(60%)実施後()				
数学	課題となった設問、領域等の改		基礎・基本 国語 領域(書くこと)通過率(43.7%)無答率(5.8%) 数学 領域(数と式)通過率(35.0%)無答率(0%)				<具体策> 数や量を表すとき、1単位あたりの量との割合で表すことを、いろいろな場面でやっていく。 「資料」を扱う単元で、用語の意味を理解させる。 <定着に向けて> ドリルや確認テストを行う。		基礎・基本 国語 目標値(50%)実施後() 数学 目標値(60%)実施後()				
理科	市の学力調査分析		理科 領域(化学)通過率(24.3%)無答率(1.9%) 英語 領域(話すこと)通過率(44.1%)無答率(2.0%)				<具体策> 実験から分かった性質を元に、仮説を立てさせる活動を仕組む。 <定着に向けて> 考えを説明させる活動を授業で行っていく。		理科 目標値(40%)実施後() 英語 目標値(60%)実施後()				
英語							<具体策> 音声でできたことに対してすぐ反応することができるよう、英語でやりとりする場面をつくる。 <定着に向けて> 例文や教師の発話の中で 進行形等既習文法を使用し、何度も繰り返し見たり聞いたりする中で定着をはかる。						